

# バルク20年へ万全対応

## 来年からのFRP検査にも意欲

全検協総会



白砂清一 会長

全国高圧ガス容器検査協会(白砂清一会長)は5月23日、東京・港区のメルパルク東京で第6回通常総会を開催した。

冒頭あいさつした白砂会長は、28年度の検査本数が約490万本だったと振り返り、「ここ数年と振り返り、『ここ数年は年間容器生産数が200万本を維持していることから、今後2、3年先を見通しても年間検査本数は同数程度で推移すると予測される。安心して検査事業を進めていきたい』と述べた。

また、バルク貯槽20年検査・廃棄処理については、「予測として80%は廃棄になるのではないかと見込み、同協会が策定した『くす化要領書』をベースにした日団協バルク貯槽くす化指針が公表されたことを報告。7年後には3万基のピークを迎え、同協会の試算では検査所100社がくす化対応に臨んだとしても、年間処理可能な数量は最大2万基弱と見積もっていることからピーク数量を処理しきれないと警鐘を鳴らし、負担を分散するために1社でも多くの検査所に手を挙げてほしいと呼び掛けた。

また、FRP容器も来年から順次、最初の検査を要する。技術委員会に

また、FRP容器も来年から順次、最初の検査を要する。技術委員会に



新たに正会員3社、賛助会員2社が加わった

29年度の事業計画としては、関係官庁、関係団体及び関連会社との緊密化を図るほか、高圧ガス保安全国大会への参加、全検協団体賠償責任保険への募集等を積極的に進めていく。

新規会員としては、正会員にイワサワ(神奈川県、一般高圧)、川口総合ガスセンター(埼玉県、トプラスチックや塗同)、アイ・エス・ガステム(千葉県、LPガス)の3社、賛助会員に大原鉄工所、関西ペイント販売の2社。

期限を迎えることから、従来の容器検査ラインには載せられな

受渡者は次の通り(敬称略)。  
角濱明(みちのく容器検査・青森県)、地頭所誠(九州高圧・鹿児島県)、天野智子(宇都宮プロパコン容器検査・栃木県)、齋田宏(サイサンガステクノ・埼玉県)、前田剛(天静高圧・静岡県)

いたため手作業が増えることなど

新たな負担が生

装の工程が省ける部分で

コストを抑えた容器検査

が実現可能であることな

どを説明。技術委員会に

より再検査基準を策定し

業員表彰が実施された。